



厚生労働省

千葉労働局

Press Release

千葉労働局発表
平成 29 年 5 月 30 日



【照会先】

千葉労働局 労働基準部 健康安全課
課長 遠藤 光
課長補佐 石井 伊佐久
安全専門官 菰田 清之
電話 043-221-4312

「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」

平成 29 年度全国安全週間千葉労働局・労働基準監督署合同パトロール実施

千葉労働局（局長塚本勝利^{つかもとかつとし}）は、全国安全週間（平成 29 年 7 月 1 日から 7 月 7 日〈本週間〉、6 月 1 日から 6 月 30 日〈準備期間〉）の期間中に、3 月 1 日から取り組んでいる「なくそう死亡災害！運動ちば 2017」を一層推進するため、以下により千葉労働局・労働基準監督署による合同パトロールを実施します。

1、実施年月日及び時間

平成 29 年 6 月 14 日（水） 13：30～16：00

2、パトロール現場

(1) 名称：三井造船株式会社千葉事業所

所在地：市原市八幡海岸通り 1 番地

(2) 名称：高松・青木あすなる特定建設工事共同企業体（仮称）DPL 流山 C 棟新築工事

所在地：流山市西深井 1514 番-1

3、安全パトロールの編成

(1) 千葉労働局：塚本局長他 3 名

千葉労働基準監督署：西岡署長他 1 名

(2) 千葉労働局：改田労働基準部長他 3 名

柏労働基準監督署：市倉署長他 1 名

4、参考資料等

(1) 添付資料

①平成 29 年度全国安全週間千葉労働局・労働基準監督署合同パトロール実施要領

②平成 29 年度全国安全週間実施要綱・リーフレット

③なくそう死亡災害！運動ちば 2017 リーフレット

④グラフで見る千葉県の労働災害の現状

⑤平成 29 年 4 月末災害統計（死亡・死傷）

(2) その他

当日、同行取材を希望される場合は、6 月 9 日（金）までに上記千葉労働局労働基準部健康安全課（石井、菰田）あて、ご連絡いただきますようお願いいたします。

平成 29 年度 全国安全週間千葉労働局・労働基準監督署合同パトロール実施要領

1 目的

千葉県内における平成 28 年の死傷者数は前年比 1.5%増加の 5,092 名となり、死亡者数は 36 名と前年より 5 名の減少となりましたが、本年に入り死亡者数は 4 月末現在 17 名に達し、前年同期比 112.5%の増加と第 12 次労働災害防止計画の目標達成には相当な努力を要する状況にある。これらの要因としては、安全衛生意識、危険感受性の低下、基本的な安全管理の取組が労働者に徹底されていないこと、安全管理体制の不備による安全活動が低調となっていることなどが考えられる。

そこで、多発している死亡災害に歯止めをかけ、死傷災害の大幅な減少を目指して全国安全週間準備期間中に標記パトロールを実施し、

- (1) 「なくそう死亡災害！運動ちば 2017」を推進する。
- (2) 災害多発業種の事業場に対し労働災害防止対策の更なる徹底を図るため、局幹部自ら事業場に赴き周知を図る。
- (3) 事業場が行う労働災害防止活動への支援を行う。
- (4) 女性活躍推進法の施行に伴い、現場で活躍する女性の災害防止活動への支援を行う。
- (5) 全国安全週間をきっかけに労働災害防止活動を活発化させる。

2 実施者

- (1) 三井造船株式会社千葉事業所（市原市八幡海岸通り 1 番地）

千葉労働局：塚本局長、遠藤健康安全課長、加藤雇用環境・均等室長、菰田安全専門官

千葉労働基準監督署：西岡署長、菊池安全衛生課長

- (2) 高松・青木あすなろ特定建設工事共同企業体（仮称）DPL 流山 C 棟新築工事（流山市西深井 1514 番-1）

千葉労働局：改田労働基準部長、名田総務部長（総括政策調整官）、山本雇用環境改善・均等推進監理官、内衛生専門官

柏労働基準監督署：市倉署長、高橋安全衛生課長

3 パトロール行程

6 月 14 日水曜日

- | | |
|-------|----------------|
| 13：30 | (1) パトロール目的説明 |
| | (2) 所長挨拶 |
| | (3) 局長挨拶 |
| | (4) 事業場概要説明 |
| | (5) パトロール行程の説明 |
| 14：00 | パトロール開始 |
| 15：30 | パトロール終了 |

15：40 パトロール講評
16：00 終了

4 その他

- (1) 服装：ヘルメット、作業服、安全帯（ハーネス型）、軍手、保護メガネ、防じんマスク（簡易型）、安全靴長靴又は短靴及び脚絆。
- (2) 当日、同行取材を希望される場合は、6月9日(金)までに千葉労働局労働基準部健康安全課（石井、菰田）あて、ご連絡いただきますようお願いいたします。
- (3) 撮影等については事業場の指示に従ってください。

平成 29 年度全国安全週間実施要綱

1 趣 旨

全国安全週間は、昭和 3 年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で 90 回目を迎える。

この間、事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきた。この努力により労働災害は長期的に減少し、平成 28 年の労働災害については、死亡災害は 2 年連続で 1,000 人を下回る見込みである。

しかしながら、休業 4 日以上之死傷災害（以下単に「死傷災害」という。）は前年より増加する見込みで、死亡災害についても平成 28 年 11 月から平成 29 年 2 月まで 4 か月連続で前年同月を上回っている状況である。これらの要因としては、基本的な安全管理の取組が労働者に徹底されていないこと、第三次産業においては、多店舗展開企業等の傘下の店舗等に安全担当者がおらず、安全活動が低調となっていることなどが考えられる。

このような状況を踏まえ、更なる労働災害の減少を図ることを決意して、平成 29 年度全国安全週間は、以下のスローガンの下で取り組む。

**組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動
未来へつなげよう安全文化**

2 期 間

平成 29 年 7 月 1 日から 7 月 7 日までとする。

なお、全国安全週間の実効を上げるため、平成 29 年 6 月 1 日から 6 月 30 日までを準備期間とする。

3 主 唱 者

厚生労働省、中央労働災害防止協会

4 協 賛 者

建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会

5 協 力 者

関係行政機関、地方公共団体、安全関係団体、労働組合、経営者団体

6 実 施 者

各事業場

7 主 唱 者、協 賛 者 の 実 施 事 項

全国安全週間及び準備期間中に次の事項を実施する。

- (1) 安全広報資料等の作成、配布を行う。
- (2) 様々な広報媒体を通じて広報を行う。
- (3) 安全パトロール等を実施する。

- (4) 安全講習会等を開催する。
- (5) 安全衛生に係る表彰を行う。
- (6) 「国民安全の日」(7月1日)の行事に協力する。
- (7) 事業場の実施事項について指導援助する。
- (8) その他「全国安全週間」にふさわしい行事等を行う。

8 協力者への依頼

主唱者は、上記7の事項を実施するため、協力者に対し、支援、協力を依頼する。

9 実施者の実施事項

安全文化を醸成するため、各事業場では、次の事項を実施する。

(1) 全国安全週間及び準備期間中に実施する事項

- ①安全大会等での経営トップによる安全への所信表明を通じた関係者の意思の統一及び安全意識の高揚
- ②安全パトロールによる職場の総点検の実施
- ③安全旗の掲揚、標語の掲示、講演会等の開催、安全関係資料の配布等の他、ホームページ等を通じた自社の安全活動等の社会への発信
- ④労働者の家族への職場の安全に関する文書の送付、職場見学等の実施による家族の協力の呼びかけ
- ⑤緊急時の措置に係る必要な訓練の実施
- ⑥「安全の日」の設定のほか全国安全週間及び準備期間にふさわしい行事の実施

(2) 継続的に実施する事項

① 安全衛生活動の推進

ア 安全衛生管理体制の確立

(ア) 年間を通じた安全衛生計画の策定、安全衛生規程及び安全作業マニュアルの整備

(イ) 経営トップによる統括管理、安全管理者等の選任

(ウ) 安全衛生委員会の設置及び労働者の参画を通じた活動の活性化

イ 職業生活における安全衛生教育計画の樹立と効果的な安全衛生教育の実施等

(ア) 経営トップから第一線の現場労働者までの階層別の安全衛生教育の実施、特に、雇入れ時教育の徹底及び未熟練労働者に対する教育の実施

(イ) 就業制限業務、作業主任者を選任すべき業務での有資格者の充足

(ウ) 災害事例、安全作業マニュアルを活用した教育内容の充実

(エ) 労働者の安全作業マニュアルの遵守状況の確認

ウ 自主的な安全衛生活動の促進

(ア) 発生した労働災害の分析及び再発防止対策の徹底

(イ) 職場巡視、4S活動(整理、整頓、清掃、清潔)、KY(危険予知)活動、ヒヤリ・ハット等の日常的な安全活動の充実・活性化

エ リスクアセスメントの普及促進

(ア) リスクアセスメントによる機械設備等の安全化、作業方法の改善

(イ) SDS(安全データシート)等により把握した危険有害性情報に基づく化学物質のリスクアセスメント及びその結果に基づく措置の推進(「ラベルでアクション」の取組の推進)

オ その他の取組

(ア) 安全に係る知識や労働災害防止のノウハウの着実な継承

- (イ) 外部の専門機関、労働安全コンサルタントを活用した安全衛生水準の充実
- ② 業種の特性に応じた労働災害防止対策
 - ア 小売業、社会福祉施設、飲食店等の第三次産業における労働災害防止対策
 - (ア) 全社的な労働災害の発生状況の把握、分析
 - (イ) 経営トップの意向を踏まえた安全衛生方針の作成、周知
 - (ウ) 職場点検、4 S活動（整理、整頓、清掃、清潔）、KY（危険予知）活動、危険の「見える化」、ヒヤリ・ハット活動等の安全活動の活性化
 - (エ) 安全衛生担当者の配置、安全衛生教育の実施、安全意識の啓発
 - イ 陸上貨物運送事業における労働災害防止対策
 - (ア) 荷台等からの墜落・転落防止対策、保護帽の着用の実施
 - (イ) 積みおろしに配慮した積み付け等による荷崩れ防止対策の実施
 - (ウ) 歩行者立入禁止エリアの設定等によるフォークリフト使用時の労働災害防止対策の実施
 - (エ) トラックの逸走防止措置の実施
 - (オ) トラック後退時の後方確認、立入制限の実施
 - ウ 製造業における労働災害防止対策
 - (ア) 機械の危険部分への覆いの設置等によるはさまれ・巻き込まれ等防止対策の実施
 - (イ) 作業停止権限等の十分な権限を安全担当者に付与する等の安全管理の実施
 - (ウ) 鉄鋼業等の装置産業の事業場における老朽化設備の計画的な更新、優先順位を付けた点検・補修等の実施
 - エ 建設業における労働災害防止対策
 - (ア) 一般的事項
 - a 建設工事の請負契約における適切な安全衛生経費の確保
 - b 元方事業者による統括安全衛生管理、関係請負人に対する指導の実施
 - c 足場等からの墜落・転落防止対策の実施、手すり先行工法の積極的な採用、ハーネス型安全帯の積極的な使用
 - d 職長、安全衛生責任者等に対する安全衛生教育の実施
 - (イ) 東日本大震災及び平成 28 年熊本地震に伴う復旧・復興工事の労働災害防止対策
 - a 輻輳工事における適正な施工計画、作業計画の作成及びこれらに基づく工事の安全な実施
 - b 一定の工事エリア内で複数の工事が近接・密集して実施される場合、発注者及び近接工事の元方事業者による工事エリア別協議組織の設置
 - オ 林業の労働災害防止対策
 - (ア) チェーンソーを用いた伐木及び造材作業における保護具、保護衣等の着用並びに適切な作業方法の実施
 - (イ) 木材伐出機械等を使用する作業における安全の確保
- ③ 業種横断的な労働災害防止対策
 - ア 転倒災害防止対策（STOP！転倒災害プロジェクト）
 - (ア) 作業通路における段差や凹凸、突起物、継ぎ目等の解消
 - (イ) 照度の確保、手すりや滑り止めの設置
 - (ウ) 危険箇所の表示等の危険の「見える化」の実施
 - イ 交通労働災害防止対策
 - (ア) 適正な労働時間管理、走行計画の作成等の走行管理の実施

- (イ) 飲酒による運転への影響や睡眠時間の確保等に関する安全衛生教育の実施
- (ウ) 災害事例、交通安全情報マップ等を活用した交通安全意識の啓発
- (エ) 飲酒、疲労、疾病、睡眠、体調不良の有無等を確認する乗務開始前の点呼の実施

ウ 非正規雇用労働者等に対する労働災害防止対策

- (ア) 雇入れ時教育の徹底・内容の充実
- (イ) 非正規雇用労働者を含めた安全管理の徹底や安全活動の活性化
- (ウ) 派遣労働者における派遣元・派遣先責任者間の連絡調整の実施

エ 熱中症予防対策（STOP！熱中症 クールワークキャンペーン）

- (ア) WBGT値（暑さ指数）による適正な作業環境管理、作業管理の実施
- (イ) 計画的な熱への順化期間（熱に慣れ、その環境に適応する期間）の設定
- (ウ) 自覚症状の有無にかかわらず水分・塩分の積極的摂取
- (エ) 熱中症の発症に影響を与えるおそれのある疾患（糖尿病等）を踏まえた健康管理
- (オ) 熱中症予防に関する労働衛生教育の実施